

よくある日常のよくあ  
るお話

83/hachimitsu

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

息抜き（本編を描写できない苦しみを糧に）で書きました。

台詞だけで構成されています。

読みにくいです。いつか清書出来るといいな。

# 目次

ゲームしよう！

1



## ゲームしよう！

「ああああああああああああああああああああああああああああああああ！」

「うるせえよ、あかり！」

「だって暇なんだもん！なんか叫びたくなっただもん！OIEちゃんはどっなの!？」

「叫びたくはなんねえよ。でもまあ確かに暇だなあ。夜は暇しなくても真っ昼間からするこつてもなあ。」

「じゃあゲームしよ！ゲーム！」

「お前の選ぶゲーム以外ならな。」

「なんで！」

「お前の選ぶゲームって一人用RPGばかりじゃねえか。暇してんのは私ら二人つてこ  
と度外視してんじゃねえの？」

「いいじゃん！面白いじゃん！OIEちゃんもしよう！」

「一人の時な。……困みになにするつもりだったんだ？」

「STEEL? GLOWかstarr? skay」

「ぜってー1日で終わらねえゲームをチョイスすんな。つーかもう片方に至っては乙女

「ゲームじゃねえか!」

「乙女ゲーを馬鹿にするつもり?」

「いや、そうじゃねえけどさ。一人用RPGよりも一人用のゲームを選んでくるとは思わなくてさ。」

「皆で選択肢考えるのも面白いよ?」

「ともかく!ゲームするにしても二人プレイ出来る奴な。」

「あ、じゃあこれは?」

「ん、なになに……って0じゃねえか!一人用の上にホラーってお前!」

「名作だよ?」

「名作だけど!二人プレイじゃ無いじゃねえか!」

「でも皆でやっても面白い………もしかしてOIEちゃん。ホラー苦手なの……?天  
下のnoiseの総長なのにホラゲーも出来ないの?そっか、ごめんね。苦手なら  
しょうがないね。別のゲーム選ぼっか。」

「にに、苦手なわけねえだろ!」

「そう。じゃあ0しよっか。」

「畜生……。」

「ひいやあ!？」

「ちよ、OIEちゃん。ちよつとした脅かし要素の度に叫ばないでよ……。」

「だ、だつて……ひいやあ!？」

「ちよ、抱きつかないでよ。やりづらいでしょ。(よっしや役得うううううう!)」

「うあ、ごめ、きやあ!!」

「はあ……やりづらい。(これ選んで正解だったなあ)」

「な、なあ、そろそろ止めないか?」

「うん……あーそうだね。時間も時間だし。遅れてもあれだしね。じゃあ私も帰ろっかな。」

「お、おう!(やつと終わった。)」

「じゃあまた二時間後。」

「そうだな。何時もの場所で二時間後。」

「ふう……やつと帰った……。OはIA姉えに閉まつとく様に言つとこ……。」

「あれ?私の特効服どこやったっけ?」

「押し入れのなかは?」

「きやつ!い、IA姉え。お、驚かさないでよ……。とかいっ帰ってきたの?」

「さつきよ。」

「そ。私今から出るから。」

「私のおゆはんは？」

「作つてあるから食べてて良いよ。」

「私一人で？」

「あー………んー……。ゆかりさんとかささらさんとかセイカさんとか呼んで良いから。」

「んー、OIEちゃんと食べたいなー。」

「また今度ね。つーかとつとと妹離れしてくれよ。」

「私お料理できないもん。」

「じゃあ練習するんだな。いつてくる。」

「いつてらっしやーい。」